

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472800701		
法人名	株式会社 ウェルフェア		
事業所名	グループホーム ふたみ		
所在地	三重県伊勢市二見町松下1349-64		
自己評価作成日	平成22年 7月 14日	評価結果市町村提出日	平成22年9月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2472800701&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 22 年 8 月 9 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1.看取り介護に取り組んでおります。職員全員と相談し合意の上で取り組んでいく事を基本にし、日頃から話し合いや勉強会などを行っています。職員側からは積極的に前向きな要望が出てくるくらい向上心のある職員が多く、加えてホームドクターも協力的で職員に分かりやすく説明してくれ、家族とのカンファレンスにも参加してもらうなど、本人や家族に安心していただけるような看取り介護を目指しております。
2.職員は入居者様が「一日が嫌な思いで終わらないように」という事を念頭におき日々の生活のお手伝いをさせていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

看取り介護に取り組む、住み慣れた所で最後まで安心して暮らせる場所になっている。医療との協力関係をしっかり築き、24時間体制で見守りをしている。入居時から重度化した場合について家族ともよく相談し、最後まで安心して過ごせ、人生の終わりを安らかな形で終るように、職員全員で相談、合意した上で取り組み支援をしている。職員は明るく、生き甲斐ある仕事として従事しており、利用者もイキイキした顔でゆっくりと毎日を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方々と協力し、開かれたホームを創ることを目指し努力している。入社時は社長又は管理者から施設理念を説明すると共に、常日頃ミーティング等で確認し合い、実践に努めている。	「のんびり、一緒に、楽しみながら」の理念の言葉には、家族や地域の方と一緒に協力し、ホームに関わる全ての人が笑顔で楽しめるようにとの思いが込められており、職員も日ごろから確認し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りの運営委員に選ばれ、会議や開催運営に協力する一方、職員もボランティアで祭りの設営などに参加している。利用者様も祭りに参加し地域の方々と交流する機会を設けている。	8月に夕涼み盆踊り会を事業所で計画しており、老人会などからも参加してもらうようにしている。二見町の大規模なお祭りには、利用者も参加をして地域の方々と交流する機会を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各二見町民生児童委員対象に認知症啓発を目的とする勉強会を開催させて頂いた。今後も活動予定を民生児童委員とも意思入れ検討中である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日々の報告だけではなく事故報告も行い、会議参加者の皆さんから意見や改善方法を一緒に考えてもらいホームの向上に繋げている。	3カ月に一度の開催で、行政、地域の人、家族にも参加を呼びかけて、活発な意見交換をしている。	事業所と地域との交流促進のためにも、2カ月に一度の開催を目指していただきたい。地域包括支援センターの活用も考え計画的な取り組みを図られることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者も運営推進会議に参加して頂き貴重なご意見をいただくなど、協力してもらっている。また生活保護の方も増えてきており、困ったこと、分からないことがあると色々と相談にのってもらいながら運営している。	行政連絡ノートに市との連絡事項について記録を残し、相談や情報提供を行い連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関には鍵をかけていない。ホームには身体拘束委員会を設置し委員会が主体となって、施設内勉強会や会議を開催して日々「身体拘束ゼロ」に取り組んでいる。	玄関には鍵をかけず門扉までは自由に出入りが出来るようにしている。身体拘束については職員は勉強会や研修を通じてよく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は外部研修に参加しており、施設内勉強会は今年度中に予定している。利用者様の精神状態、身体観察を行ない、虐待が見過ごされることがないように注意を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・職員は外部研修に参加しており、施設内勉強会は今年度実施を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書は読み上げて、詳しく説明して質問に答えている。重度化、看取りなども相互が理解し同意した上で契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議への参加時に意見や要望を発言する機会を設けている。施設入口にも意見箱を設置している。介護相談員に月一回ホームを訪問していただき利用者様の意見を聞いていただき、日々のケアに活かしている。	家族には運営推進会議への参加を毎回呼びかけ参加時には活発な意見交換が出来るように取り組んでいる。会議で出されたプライバシー保護などの意見は、貴重な意見として即日運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員とのミーティングで意見を聞き、代表者は施設会議において管理者からホームの状態や職員の要望、意見を聞く体制をとっている。代表者にはその都度適切に対応してもらっている。	日々、スタッフからの話や月一回のカンファレンスを通して、管理者は職員の意見や提案を聞いている。出された意見や提案は管理者から代表者に報告され、代表者は適切に運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員一人一人のことについては、施設会議での管理者からの話や代表者自身が直接対話する機会もあって、親身に対応している。絶えず良好な環境や労働条件の改善に向け真摯に努力されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加も積極的に取り組めるようにしてもらっている。また、資格取得にかかる費用の助成の仕組み各種資格手当を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設と合同の花見やヨットクラブなどで交流したり、地域密着型サービス協議会や地域の連絡協議会に加入し、交流する機会を設け職員が参加出来るようにしている。参加することにより、親睦が図られホームでのケアの向上に繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に会って、要望や思い、生活状況を把握した上で利用開始している。入居時には面談を担当した職員が笑顔で出迎え、皆さんに紹介している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の希望や思いをお聞きし、施設で出来る事や出来ないことを話し、十分理解していただき利用を開始している。「いつでも連絡して下さい」と声をかけ、いい関係が築いていけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の状況を把握し、ケアマネジャーやケアワーカー等とも良く相談し、安心してサービスが受けられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯、物干し、食事の配膳など出来る事は、職員と一緒にいき協力し合っている。また職員が育児や家庭のことなど話をきいてもらい、教えてもらったり参考にさせてもらう事もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居する前に家族関係が良好な状態の方もみえるが、職員が中に入り再度家族として関わりが持てるよう配慮している。看取り期に入った時はご家族の面会を多くして頂き、ご家族も十分介護できたと満足し、後々後悔されないように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別支援として、自宅に帰ったり、馴染みの美容室に行ってもらったりしている。また自宅に近いところへとドライブに出かけたりもしている。	動くことが可能な方は、自宅に帰ったり家族の協力を得て葬儀に参加するなど、出来るだけ馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は日々の生活の中で、個々の関係やその時の精神状態が配慮して、より良い状態で関わりが持てるようにしている。ただし無理強いはいないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方はこちらから1・2回訪問している。また関係機関やご家族にも何か相談や、今後も協力できる事があれば、気軽に話し頂くよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どんな状態の方にも、必ずご本人に会い希望や意向を聞くようにしている。言葉がつかなくても話の内容、表情から意向を読み取り、ご家族にもお聞きして把握している。	意思疎通の難しい人も家族が来ると話が出来たり、調子のよい時にはお喋りが出来るなどの状態から、その時々状態をよく観察し、表情から思いや意向を読み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し、ご本人やご家族に話を聞いている。また一回のお話では把握できないので、入居後もご本人との話の中やご家族の面会時にお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所後は一日の過ごし方を注意深く見守りながら観察し、バイタルチェック、入浴時身体チェック、排便チェックなどを通じ心身状態を速やかに把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は必ずケアカンファレンスを開催して作成している。ケアカンファレンスには、ご家族や主治医の参加もあり、ご本人・家族の要望を優先し、介護計画に反映している。	月1回のカンファレンス会議で3カ月に一度の見直しをしている。会議には主治医、家族の参加もあり、皆で介護計画を話し合い、よりよい介護を目指している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月一回は各担当者が評価し記録に残し他の職員が閲覧できるようにしてある。評価を踏まえカンファレンスを開催し介護計画の見直しや日々の介護に活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望に合わせ、買い物や馴染みの店に出向いたり、病院受診し、看取り介護も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて民生委員や地域の区長と意見交換の場を持っている。避難訓練に消防の協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望通り、入居後も主治医は変更してもらわない方針をとっている。ホームも主治医と連携を図っているが、ホームドクターと主治医との連携もしっかり構築されている。	入居時の主治医は希望により、そのまま継続してもらっている。ホームドクターとは24時間体制で連携している。月2回の訪問診療や週1回の訪問看護により医療については安心できる支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は看護師との連絡書類を作成し、週2回の訪問看護時には、入居者の状態がわかるようになっている。来所日以外でも、いつでも看護師に相談や助言が受けられる体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人に付き添い情報を提供すると共に、介護サマリーを作成している。病院とはご家族と共に医師から状態の説明や早期退院・退院後の生活について助言を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の段階で、重度化した場合について話し合い、分かりやすく説明して同意を得ている。看取り期に入った時には、ご家族や職員で話し合いを重ね、看取り介護の方針は共有できている。	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」を基に、本人家族に十分説明し同意を得ている。終末期になった時には、「看取り介護について」話し合いをし、職員、家族、ホームドクターが一体となって支援する体制ができている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は消防署主催の救命救急の講習を受けている。また、マニュアルを備えいつでも勉強できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年二回利用者と共に避難訓練を行なっている。10月と4月に避難訓練を実施。	消防団と消防署の協力を得て実際に夜間にも訓練を実施している。津波対策などの避難訓練もしている。スプリンクラーの設置、備蓄にも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送りやミーティングの際に管理者により意識向上を図り、日々の利用者への関わりでトイレ誘導時の声掛けや間違いをした時の声掛けなど利用者様の誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。	職員は食後それとない誘導で排泄を促している。利用者に対してもきちんと名前と呼ぶなど基本的な人格尊重に心がけた対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別で話しする機会を設け、ご本人の希望を聞くようにして実現するようにしている。テレビや折り込み広告・本などを活用して自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アセスメントを充実させ、ご本人のペースや希望を把握し型にはまった決め事にせず、散歩や外出、一人で過ごす時間などを作り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人やご家族に好みを聞いて、入居時に好きな服を持参してもらうようにしている。髪型も本人の希望を聞いてカットしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の嗜好調査をおこない、食べれないものはメニューを変更し対応している。食事の準備・片づけは、できる方は一緒にしている。また、食事時はテレビを止めクラシック音楽を流して食事に集中できる静かな環境を整えている。	食事は隣接する小規模多機能と一緒に業者委託になっているが、事前の嗜好調査により嫌いなものは好きな食材に変更してもらうなど、食べられる工夫をしている。訪問当日は、下膳と食器洗いが出来る方は自分の仕事として取り組まれていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事・水分量を記録し中間でチェックし、少ない時は摂取できるように支援している。また、水分の多い果物など提供するなど工夫している。食事の形態は個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は食後の口腔ケアの重要性を理解し、口腔ケアは必ず励行している。寝たきりの方には、スワブを使用して介助している。口腔内の状態が悪い時には、歯科医への受診も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄が出来るように、排泄パターンを把握しトイレ誘導している。訴えることができなくても、表情やしぐさで読み取り、心地よく排泄できるように支援している。	排泄記録を取りパターンを把握してトイレでの排泄を心がけ誘導し、成功体験を積んでいる。それにより尿便意を感じた事を見逃さないように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らず、食べ物に気をつけ運動を心掛けている。便秘がちな方は、乳製品を取り入れている。食後1時間で必ずトイレ誘導することにも取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの心身の状態に合わせて入浴のタイミングをはかっている。一人が入浴するたびに浴槽の洗浄とお湯の入れ替えを行い、清潔かつ不快がないようにしている。	1日に3名ずつの入浴としているが、急変などある時にはその時に応じて対応している。一人ひとり、必ずお湯を入れ替えての入浴とし、清潔第一の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファや自室でくつろげるように配慮している。夜間も就寝時間は決めておらず、ご本人の希望に応じて対応している。眠れない時には温かい飲物を提供したり、何時でも側にいることを伝え安心してもらえるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は個人別にファイルに綴じて、職員がすぐ確認できるようになっている。また主治医の診察には職員が付き添い、医師からも説明を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ハーモニカや作品作り、草抜き等一人ひとりの楽しみを入居後も継続して頂き、役割を果たした時には、感謝の言葉を述べるようにしている。散歩や買い物にも出かけて気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って散歩に出かけている。家族と外出することもあるし、地域のボランティアの協力を得て祭りやお雛さまめぐりにも出かけている。	地域のボランティアの方をお願いして、一緒に二見町まつりやお雛様めぐりの見学等している。近くの菖蒲祭りなどにも散歩を兼ねて出かけるなど、体調を見ながら外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで管理しているが、お出かけの際など自分で支払い出来るように配慮している。また、ご自分で出来る方に関しては、少額を手元に持って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が気兼ねなく電話で話せるように、職員は電話中は邪魔しないようにさり気なく見守っている。電話の時は自室か事務所を使用してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや音楽は雑音にならないように音量に注意している。室温は温度計・湿度計を使用し調整している。玄関や居間には花や季節の物を飾ったり、季節感が味わえるようにして居心地よく過ごせるよう工夫している。	玄関前にはソファがおかれ気軽に外気に触れることが出来る。季節感が味わえるようにすだれを掲げたり団扇を作ったりもしている。段差の高かった畳敷きを10 ^{センチ} 高さの畳床に替えて、自由に上り下りできる居心地の良い場所になるように工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペースを有効に使えるよう、畳コーナーの改修をした。居間にはソファを2か所に分けて置き、居場所作りをしている。玄関にも椅子を置き一人になれる場所を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人の馴染みのあるものや写真、好きな物を置いて混乱させず、心の落ち着く自分の居場所が出来るように支援している。	さっぱりした部屋作りの方とお嬢様のように所狭しと飾り物いっぱいの方等、それぞれの方に応じた部屋作りで落ち着く場所を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設のすべてがバリアフリーではない。歩ける方は階段を使用し、床に傾斜もあるが、手すりを付けたり段差が分かるように線を付けたりといろいろ工夫している。そして出来るだけ自立した生活が送れるように支援している。		